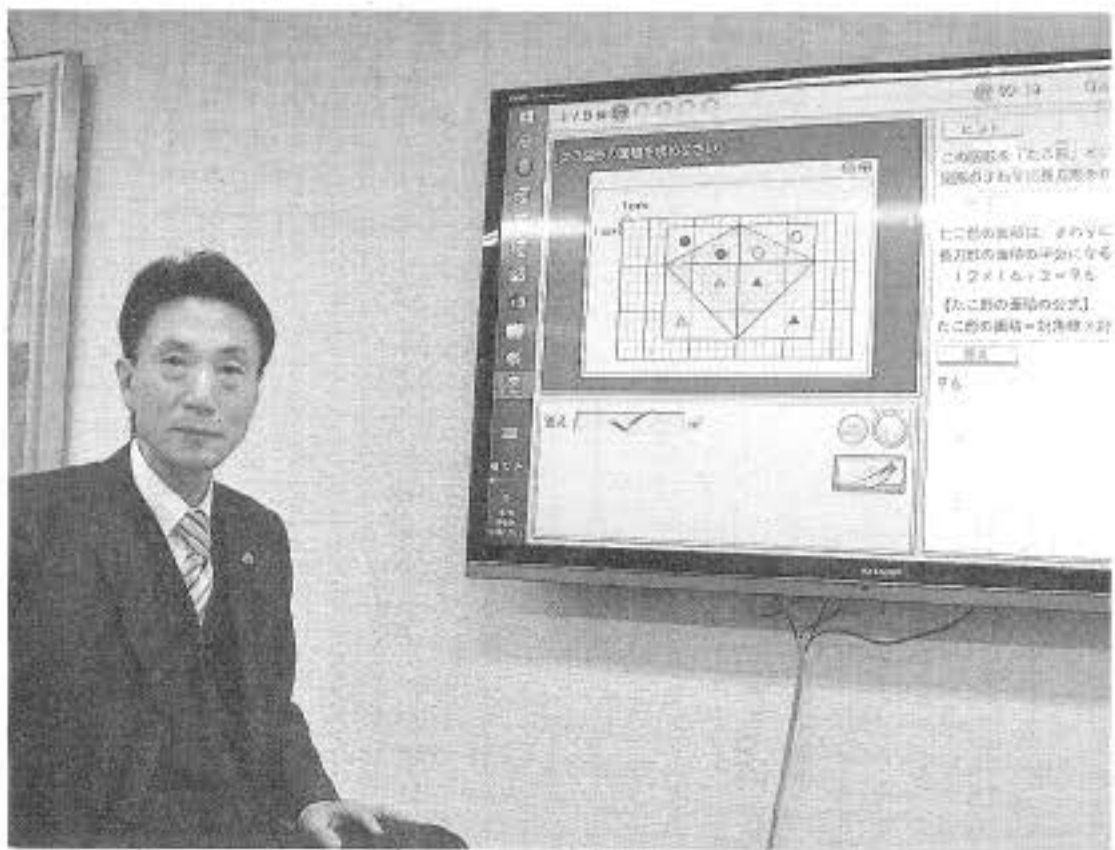


子のやる気 応援ソフト

近畿の底ぢから

乳幼児から高校生までを対象にしたパソコンを使った学習教材「天神」を販売するソフト開発会社「タオ」。理解度に合わせて一歩ずつ前に進める教材だ。全国の家庭、学校、学習塾などで使われ、利用者は5万人を超える。

草津市にあるJR草津駅に助んでいた。前のビルの一室。教師や学習塾講師の経験者20人が、パソコンを使った学習教材ソフト「天神」の問題作り12万問。各教科の単元ごと



開発した学習教材ソフト「天神」を説明する井内良三社長

全65教科 理解度に対応

に、大手進学塾の講師の動画解説もつき、問題は週1回更新されている。

1教科3万〜8万8千円（いずれも税抜き、3〜4年に1度のアップグレードは有料）。特に小中学生の教材は教科書に準拠した内容で、1995年の発売以来、全国50の小中高校、500カ所の塾で使われている。

井内良三社長(57)は元教材販売会社の営業だった。「高価な教材を売っても、やる気が出ないとほったらかしになることが多かった。実際に使ってもらえる教材を作りたい」と創業を決意。同僚だった妻と、92年、映像や音声、アニメを

使った教材ソフト開発を始めた。

他社の教材販売の代理店を務めながら貯金を切り崩してのぎ、3年かけてソフトを完成させた。コンセプトは「子どもの自己実現を支援する」。目指したのは一人ひとりに対応できる教材だ。

日本の教育は教師中心で進むことに子どもの頃から疑問があり、就職後にその思いを強くした。教室にはできる子ども、できない子ども、どちらに合わせたも授業は成立せず、結果的に教師のペースで授業が進み、子どもが置き去りにされている、と感じた。ソフトは子どもが今自分

はどこまで分かっているのか「現在地を明らかにできるように目指した」という。

小学5年生が「算数ができない」と言っても苦手な分野は様々。何を理解でき、何をできていないのかを問題を通じて探る。ひし形の面積の問題が解けないと、三角形、長方形の面積の問題を出題する、といったプログラムになっている。

学習障害のある利用者への対応も目指した。集中力が続かない子には、学習前に勉強に集中するためのアニメを使った暗算ゲームを採り入れるなどの工夫もしている。

今後はアジアを中心に海外版を検討中だ。問題の読み間違いなど子どものつまづきをパターン化して、弱点を克服するソフトの開発も視野に入れる。

ソフトには、偉人のミニ伝記を日替わりで紹介する機能もある。功績だけでなく、失敗したエピソードを盛り込んでいる。挫折しても人は経験を積み上げていくことができることを伝えたい、との思いを込めた。「成長した子が、それぞれの持ち味を生かして人の喜びを作り、自他ともに幸せになる社会を作る土台になってくれれば」と願う。

乳幼児から高校生までの学習教材ソフト「天神」の問題をつくる社員たち。いずれも草津市大路2丁目



学習教材開発会社「タオ」

タオ 草津市大路2丁目。1992年に創業。95年にパソコンを使った学習ソフト「天神」を小学生向けに発売。「天神」は2013年には文部科学省などが後援する「日本eラーニング大賞」のグランプリに選ばれた。従業員44人。売上高約5億円(15年度)。